

2020年度（令和2年度）
函館市西部地区再整備事業
町会活性化プロジェクト

実施報告書

2021年6月

函館市

都市建設部まちづくり景観課

市民部市民・男女共同参画課

目次

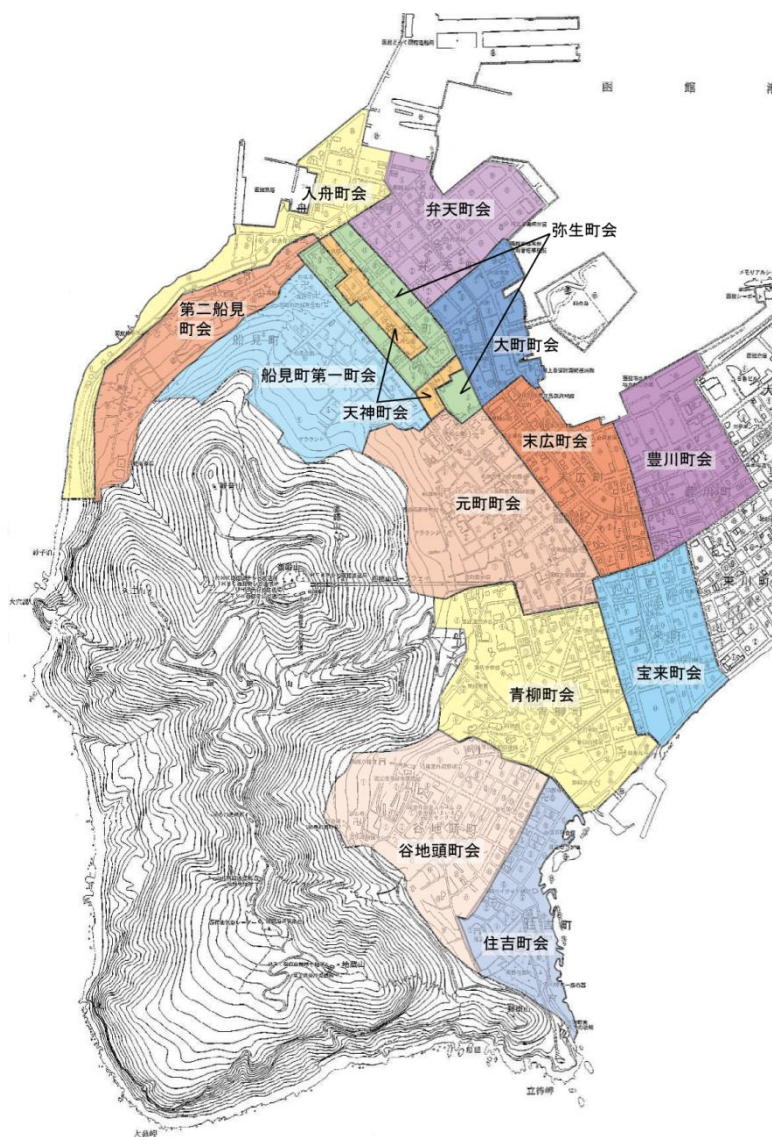
1. 町会活性化プロジェクト概要と目的・・・・・・・・・・・・・・・・P.1
2. 2019年度（令和元年度）の取り組みについて・・・・・・・・P.2
3. 2020年度（令和2年度）の取り組みについて・・・・・・・・P.2
4. 今後の進め方について・・・・・・・・・・・・・・・・P.12

1. 町会活性化プロジェクトの概要と目的

町会活性化プロジェクトは、2019年（令和元年）7月に策定した函館市西部地区再整備事業基本方針の3つの重点プロジェクトのうちのひとつとして位置づけされている。人口減少や少子高齢化、町会加入率の低下などにより資金力や活動量が減少している町会の活性化を行うものであり、市職員や学生等の新たな人材が町会に深く関わり、状況分析と方策の検討を町会と協働で行いながら、町会の活性化に繋がる取組を進める。なお、本プロジェクトの対象町会は、基本方針の対象地区にある14町会とする。

対象町会：入舟町会、船見町第一町会、第二船見町会、弥生町会、天神町会、弁天町会、大町町会、末広町会、元町町会、青柳町会、谷地頭町会、住吉町会、宝来町会、豊川町会

合計 14町会



2. 2019年度（令和元年度）の取り組みについて

令和元年度は、元町町会をモデル町会として選定し、複数回にわたる特別会議をへて『丸めて食べよう「つきたてもち」&豆まき大会』を実施した。実施結果は、設定した実施目標を遙かに上回るとともに、参加者に大変好評であったため、当イベントは成功したという認識である（詳しくは「2019年度 函館市西部地区再整備事業町会活性化プロジェクト 実施報告書」参照）。

その後の活動状況については、新型コロナウイルスの全国的な流行により本プロジェクトに関する継続的な活動を行うことは困難となった。

3. 2020年度（令和2年度）の取り組みについて

令和2年度は「新たな人材との協働による町会活性化の推進」をキーワードに、令和3年度の本プロジェクト実施に向けて新たな人材の発掘を行い、町会・市職員とともに具体的な方策を検討する期間とした。

■当初のスケジュール案

日程	内容
令和2年12月	・第1回町会活性化プロジェクト会議（特別会議）の実施（新たな人材の発掘）。
令和3年1月 ～2月上旬	・町会の現状や課題を整理する。 ・現場の声をもとに、新たな人材が町会の課題解決のための取組案を検討する。
令和3年2月下旬 ～3月上旬	・新たな人材が検討した取組案を対象となる14町会に対し発表する。 ・モデルとなる町会を公募する。
令和3年3月下旬	・令和3年度モデル町会の決定（応募多数の場合は抽選）。
令和3年4月～	・町会活性化プロジェクト始動。

■新たな人材の発掘

新たな人材として、西部地区を拠点に古民家での共同生活や様々な地域活動を行っている「函館『荘』プロジェクト」※の「わらじ荘・みなも荘・きらく荘」のメンバーに協力を依頼する。

※「函館『荘』プロジェクト」の詳細については、下記を参照。
[ホーム | 函館「荘」プロジェクト \(hakodate-sou.com\)](http://www.hakodate-sou.com)
<https://www.hakodate-sou.com>

(1) 令和2年度第1回町会活性化プロジェクト会議（特別会議）の実施

日時	令和2年(2020年)12月16日(水) 13:15~
場所	人生の学び舎「わらじ荘」(弁天町23-5)
参加者	わらじ荘 下沢杏奈 みなも荘 高木桂佑 きらく荘 大室果瑚 樽館茉奈 北海道教育大学生 1名 函館市市民部市民・男女共同参画課 奥ヶ谷貴史 播磨まりや 函館市都市建設部まちづくり景観課 成田晃浩 新田智美 計9名
会議内容	① 開会 ② 函館市西部地区再整備事業基本方針および取り組み状況等について ③ 2020年度町会活性化プロジェクトについて ④ 函館市の町会の現状等について ⑤ 今後のスケジュール案について ⑥ その他 ⑦ 意見交換会 ⑧ 閉会

はじめに、都市建設部より、町会活性化プロジェクトは函館市西部地区再整備事業基本方針で位置づけている重点プロジェクトの一環としての取り組みであることと、昨年度の経過や取り組みを「2019年度 函館市西部地区再整備事業町会活性化プロジェクト 実施報告書」をもとに説明した。

次に、市民部より、函館市の町会の財政状況や活動内容、課題等について説明し、町会についての知識を深めた後に、市が想定する今後のスケジュールを説明した。

これらの情報をもとにわらじ荘、みなも荘、きらく荘のメンバー（以下「荘

メンバー」という)と本プロジェクトに関する意見交換会を行った。

○町会の課題解決について

14町会それぞれの課題が共通しているわけではないため、コンセプトやアイデアを出すことは難しい。町会運営の課題に焦点を当てて取組案を出すことも考えたが、会員の高齢化や一人暮らしの高齢者の増加等は社会の課題であるため、荘メンバーで解決案を出すのは難しい。また、町会と荘の課題が共通していないため、荘の課題を解決しながら町会の活性化や課題解決に繋がるような取組を考えたい。

○モデル町会の選定について

14町会を対象に取組案を提案し、モデル町会を公募するということが、荘の拠点が弁天町にあることからモデル町会を弁天町会をとすることは可能か。

○まとめ

本プロジェクトの新たな担い手として、荘メンバーの協力が得られる事となった。プロジェクトの進め方等については、今後選定されるモデル町会や荘メンバーの意見を良く聞いた上で適宜見直す必要がある。また、モデル町会の選定の仕方については、荘メンバーの意向を踏まえ弁天町会に協力を依頼することとしたい。

— 当日の様子 —



(2) 令和2年度第2回町会活性化プロジェクト会議（特別会議）の実施

日時	令和3年(2021年)2月26日(金) 14:00~
場所	弁天町会館(弁天町13-1)
参加者	弁天町会 宮越則雄(会長) 川崎真一(福祉部長) わらし荘 下沢杏奈 岸本純枝 みなも荘 高木桂佑 きらく荘 大室果瑚 函館市市民部市民・男女共同参画課 久保澤和紗 播磨まりや 函館市都市建設部まちづくり景観課 成田晃浩 新田智美 計10名
会議内容	① 開会 ② 第1回特別会議の振り返り ③ 今後のスケジュール案について ④ その他 ⑤ 意見交換会 ⑥ 閉会

はじめに、弁天町会の宮越会長と川崎福祉部長より、弁天町会での活動状況や弁天町の歴史、地域の特性について説明があった。その後、意見交換会(下記参照)を行い、弁天町会館内部の見学をした。

○弁天町会の状況把握

弁天町会の宮越会長と川崎福祉部長より、現在と過去の弁天町会の活動状況や弁天町の歴史、地域の特性について話を聞き、理解を深めた(下記参照)。

現在の活動

- 回覧板を回す
- 街路灯の維持管理
- 住民生活に関する行政への要望

- ・防災や防犯（会議への出席等）
- ・春秋のクリーングリーン作戦
- ・花いっぱい運動

過去の活動

- ・青色回転灯装備車による防犯パトロール
- ・夏祭り
- ・子どもの誕生日会

※いずれも活動の担い手不足や参加者の減少等による。

弁天町の情報

- ・過去には商店街や夜店（屋台）が開かれており大変栄えていた
- ・数年前までは大黒町フェスティバルが開かれていた
- ・数十年前にまちづくりグループが熱心な活動を行っていた
- ・商売をしていた人や水産関係に勤めていた人が多く暮らしている
- ・空き地は多いが、活用困難である
- ・猫が多い。

○取り組みの方向性について

弁天町会からは、既に高齢者向けの事業はあるため、若者向けの事業を考えてもらいたいと思っているとの意見があった。荘メンバーは地域の学びと子どもに関することを絡めた活動を行っているため、そのような方向で弁天町会を拠点とした事業をいくつか考えてもらい、機会を捉えて集まった人々が顔見知りになっていき、町会館が楽しい場所だと思ってもらえることが理想なのではないかと考える。

○取り組みを行う上での懸念点

モデル町会として本プロジェクトを遂行するにあたり、弁天町会はマンパワー不足に不安を感じていることがわかった。それに対し、荘メンバーからイベント等の活動を行う際は、学生等のボランティアを募りマンパワーを補うことも可能であるという意見があり、前向きに取り組みを考えることとした。

○町民の考えを汲み取る

取り組み案を検討するにあたり、荘メンバーから「町民が何を思っているか、何を求めているかを知る必要があるため町民と話す機会が欲しい。」という意見があった。それに対し、弁天町会からは「仮にそのような機会を設けたとしても、町民はなかなか集まらないと思っている。効率的に町民の考えを汲み

取るためには、荘メンバーも一緒に町会活動に参加したり、在宅福祉委員会の一員として活動したりすることが一番良い方法ではないか。そこで生まれた会話をもとに今後展開していく取り組みを検討していくことも可能だと思う。」との回答を得た。

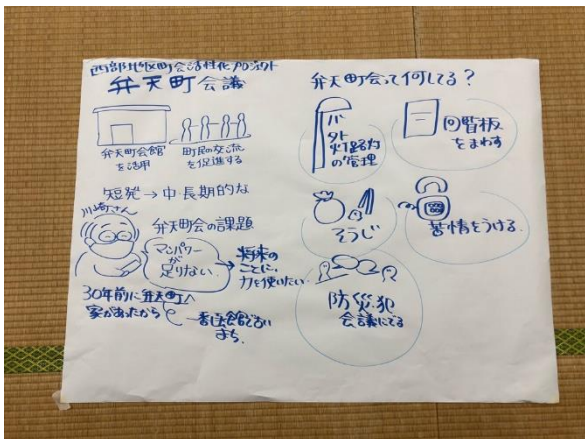
〇まとめ

令和3年度より弁天町会をモデル町会として選定し本プロジェクトを遂行していくこと、また、荘メンバーが弁天町会と協働で事業を行うにあたり、4月から荘メンバーが弁天町会に加入することが決定した。今回の会議で共有した情報を踏まえて、次回の会議までに荘メンバーが事業案を検討することとして会議を終了した。

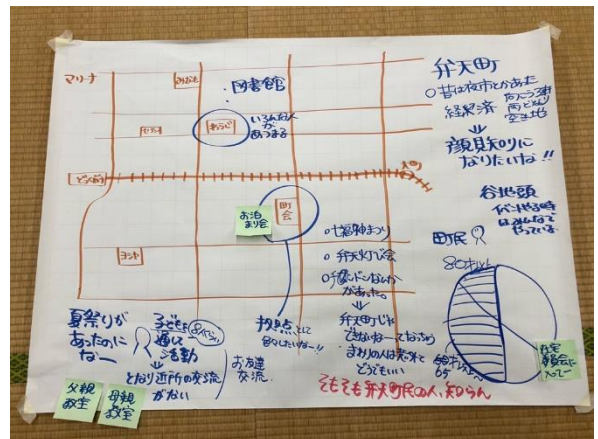
— 当日の様子 —



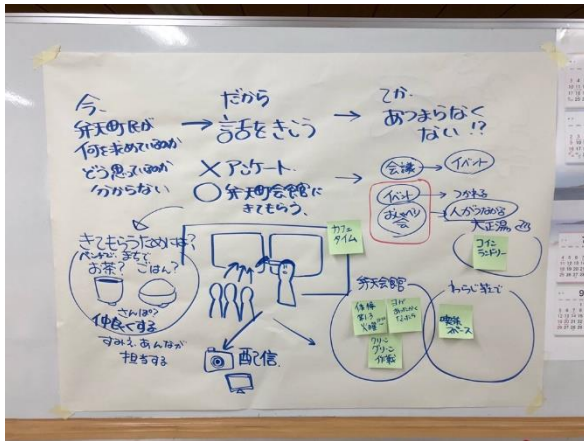
— 会議の様子 —



— 会議の記録① —



— 会議の記録② —



— 会議の記録③ —



— 弁天町会館内部見学の様子 —

(3) 令和2年度第3回町会活性化プロジェクト会議（特別会議）の実施

日時	令和3年(2021年)3月23日(火) 14:00～
場所	弁天町会館(弁天町13-1)
参加者	弁天町会 宮越則雄(会長) 川崎真一(福祉部長) わらじ荘 下沢杏奈 岸本純枝 高校生 1名 函館市市民部市民・男女共同参画課 奥ヶ谷貴史 函館市都市建設部まちづくり景観課 成田晃浩 新田智美 計8名
会議内容	① 開会 ② 第2回特別会議の振り返り ③ 今後のスケジュールについて ④ 令和3年度町会活性化プロジェクト取り組み内容について ⑤ その他 ⑥ 閉会

はじめに、前回の会議を踏まえて荘メンバーが検討した事業案を発表した（下記参照）。その後、事業案に対して弁天町会と意見交換や情報提供を行った。

○荘メンバーが検討した取り組み案

コンセプト

町会を透明化 人がなんだか集まり・交わる憩いの場へ

提案内容

提案①

4月から荘メンバーが町会に加入し、町会活動に参加する。

（目的）荘メンバーが町会の役割や仕組みを理解し、町民を巻き込む役割となるため。

提案②

弁天町会の会議や人物を可能な範囲で可視化する。

（目的）町会の会議の様子や人物等の情報をわかりやすく町民に伝えるため、イラストを交えながら作成し回覧板で回す。

提案③

荘メンバーが町会館等で活動する日を月に2回設ける。

（活動案）

- ・小学生から高校生を対象とした勉強会を開く。
- ・私物を持ち寄って物々交換会を開く。
- ・弁天町の商店街で暮らす人取材し動画等で紹介する。
- ・小学生がインスタントカメラで弁天町の写真を撮影し、その写真をSNSに投稿する。
- ・弁天町民がーからカルタを作成し、そのカルタを使ってカルタ大会を開催する。
- ・今後、荘の庭を活用して月に一度マルシェを開きたいと考えているが、同時に弁天町スタンプラリーも開催したいと考えている。弁天町会館をスタンプラリー設置場所の一つとし、町会と絡めた活動にする。
- ・大学生の合宿を弁天町会館で行いたいと考えているが、その際に子ども達も町会館に集まったり泊まったりできるような場づくりをする。

発信方法

お便りやメール、メッセージアプリをはじめとしたSNS等で弁天町の情報を発信する。

年間スケジュール

3月…お便りを作成

4月～…上記提案③のうちいずれかを実行

8・9月…子どもと大学生で夏合宿

10月…弁天芸術館（町会活動等で作成した物の展示・お披露目）

12月…荘主催クリスマスイベントの実施

○取り組み案に対する弁天町会の考え・意見

・提案①について

町会活動に参加することで町会の現状や仕組みを理解すること、また、町民を巻き込む役割を担うということについては町会としても問題ないという認識である。

・提案②について

情報を可視化する場合は、その内容をよく考えて取り組む必要がある。前回の役員会でも、町会費の用途を町会便り等でわかりやすく示した方が良いのではないかという意見が出たところだが、それを誰が作成するのかという点で問題が生じた。収支決算書と次年度の予算は回覧しているが、それをわかりやすく興味を引くような形で町会便り等に掲載できれば良いと考えている。

・提案③について

大学生の合宿が中心となった案であるが、これを子ども中心とした企画にしろ、大学生は子どものサポートに回るというものであれば町会としては大変喜ばしい。例えば、お泊まり会と避難所体験を同時に開催し、子どもは親と離れて寝る体験、大人は避難所を開設する体験として段ボールベッドや非常食を食べながら交流を深めるというのはどうか。

・情報の発信方法について

情報発信の手段として、メール配信やSNSの活用が挙げられているが、仮に高齢者が使っているアプリがあるとすればメッセージアプリかと思う。仮に、町会として新しい広報の方法を取り入れるのであれば、役員会で慎重に検討する必要がある。

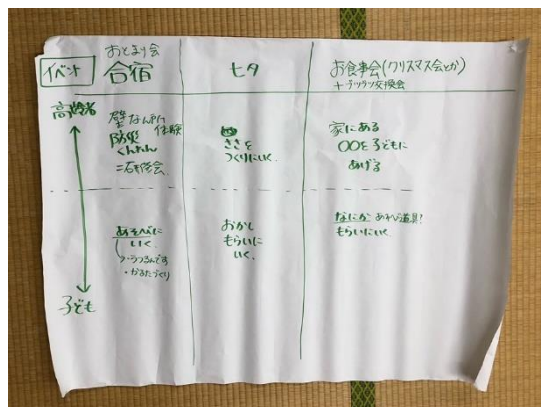
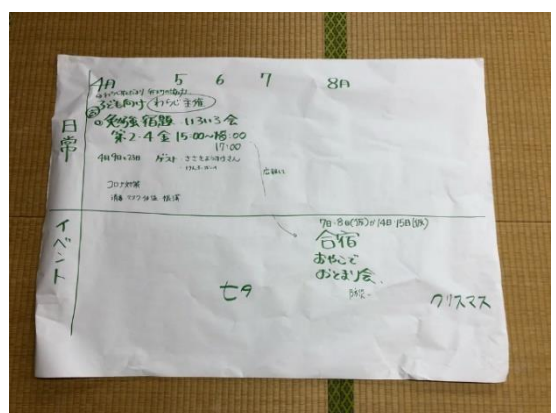
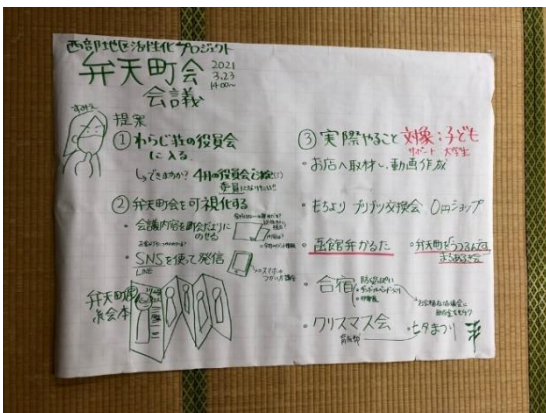
〇まとめ

まずはできることから始めることとし、4月から弁天町会協力のもと町会館を使つての勉強会やお楽しみ会（ボードゲームやボール遊び等を行うもの）を開くことに決定した。同時に、荘メンバーが作成しているお便りで開催のお知らせをし、そのお便りを回覧板と一緒に回したり、小学校に配付したりして情報の発信をすることとした。また、参加者の意見を聞きながら、今後の取り組みを増やしていくことも可能であるため、逐次取り組みを考えることとした。

— 当日の様子 —



— 会議の様子 —



— 会議の記録 —

4. 今後の進め方について

令和2年度の特別会議を踏まえ、令和3年度は弁天町会と荘メンバー、市職員が協働でプロジェクトを遂行することとし、できることから取り組みを実施していくこととなった。また、継続ある取り組みを実施する中で、適宜、特別会議を開催し、活動の振り返りや内容の見直し等を行うこととする。

また、弁天町会での取り組みを実施する中で、その他13町会の反応等を見ながら、令和4年度におけるモデル町会を募集・選定し、本プロジェクトを遂行、波及させることとしたい。